

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん		
所在地	〒021-0852 岩手県一関市三関字小沢47-2		
自己評価作成日	令和5年7月20日	評価結果市町村受理日	令和5年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔を絶やさず、利用者一人ひとりの『思い』を受け止め、利用者・職員・家族が、明るく楽しく安心して暮らせるように取り組んでいる。 ・利用者との時間を最優先と考え、心地よい空間づくりに努めている。 ・2ユニットの為交流する機会を設け緊急時には協力し合っている。 ・家族・地域住民、ボランティアの方々とお互い支え合う施設を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、平屋造りの2ユニットのグループホームである。運営法人は、当事業所を含めて、アメンバー経営(小集団、全員参加型経営)を実践し、その取り組みの一環として、接遇、経費について上位者からの指示だけではなく、職員個々に気づきや目標、改善案などをノート(フィロソフィーノート)に記入し毎月全職員で共有し、決定したことには全職員で取組むことで一人一人が経営を意識し、「明るく笑顔の絶えないホーム」という理念の実践に努めている。また、家庭と同じように、日々の食事メニューの希望をその都度利用者から聞き、備蓄食材や家庭菜園、家族から頂いた食材を活用するなど、フードロスや経費節約にも積極的に取り組んでいる。近隣地域に「ほっとスマイル通信」を配布するなどして、地域との相互理解を深めてきており、コロナ禍明けには、家族や地域との協働による施設の環境整備を図るほか、地域資源としての施設の機能活用策などを全職員で模索・検討していきたいとしている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年8月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(玄関・事務所・トイレ)の目の届くところに掲示し全職員で共有し、『明るく笑顔のたえないホーム』を実践できるようにしている。現職員で見直したいと考えているが実現できていない。	開設当初に職員で設定した理念を掲示し、それぞれの確認共有に加え、職員会議やケアカンファレンスなどの都度、理念を念頭に話合いを重ね、目線と方向性を合わせてケアの実践に努めている。職員は、日々、見直しを含めて皆で理念に向き合っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対策の為地域の方との交流はできていない。地域に根ざした施設になるよう努力している。一斉清掃の前日に利用者と職員で近所のゴミ拾いを行ったり、地域のペットボトルや缶のリサイクルに協力している。	地域の自治会に加入し、職員対応であるが回覧板回しや春秋の一斉清掃等に参加するとともに、広報誌の「ほっとスマイル通信」を春秋年2回、三関地区に40部を配布している。昨年はホームの隣に家が新築され、庭で遊ぶ子どもの姿を皆で眺めて喜んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほっとスマイル通信の回覧を年2回行い、上紙をつけて近況を伝えている。そこで施設内の活動や状況を把握してもらう機会となっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策の為書面での報告になっている。書面内に質問や意見がある際は聞いてほしい旨を記載している。今年度はアンケートを実施した。今後活かしたい。	当面は書面会議での開催としている。必要な情報は出来る限り委員に提供し、アドバイスや提案・提言を得ている。アンケートを実施してさまざまな思いや意見も頂戴している。推進会議委員として、駅前交番の署員にも声掛けしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問はない。運営推進会議の市の担当者を通じて情報交換するよう努めているが、今年度もコロナウイルスの影響があり出来ない。現利用者で生活保護の方もいないため、以前に比べると密に連絡は取れていない。	推進会議の出席以外に事業所の訪問はなく、コロナ禍のため介護相談員の来訪もないが、ホーム利用・空き状況の確認などその都度情報提供を行っている。介護保険関係の事務手続き等で窓口に出向いた際には、担当者や情報交換を重ね連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。3か月に1回身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束廃止の理解を深めている。毎月のミーティング時にケアマネジメント委員会を行い、担当職員が毎月の事故報告書とヒヤリハットを集計したものを発表し、今後の対策方法を報告している。	「身体拘束はない」ことを大前提にケアに努めるとともに適正化委員会を定期的開催し、その徹底を図っている。とりわけ「スピーチロック」については、グレーゾーンの解釈が難しく、職員間の共通理解の共有に向けて研修を重ねている。玄関には夜間を除き施錠はない。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、ミーティング時に虐待防止委員会を行い担当の職員が資料を作成している、虐待について理解し、絶対にあってはならないこととして周知徹底している。利用者に対しての言葉掛けや支援方法を職員同士注意しあいながら虐待が行われないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に利用できるよう、施設内勉強会を行い理解するよう努めているが、現在活用している利用者がいないため知識不足であり、更なる知識習得を目指す為資料を回覧したり、勉強会の実施を継続したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた環境で丁寧にわかりやすく説明するよう心掛けている。利用者やご家族の不安や疑問を解消したうえで契約できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の時など、話しやすい環境づくりに努め、意見・要望を聴いている。運営に関する要望はないが個人的な要望はあるので対応している。	面会等来訪時は担当のみならず他の職員にも気軽に話し掛けられる雰囲気などの環境づくりを常に心がけている。運営についての意見や提言は出されていないが、夜勤の2人体制に対して不安を訴える家族の方が居られることから、丁寧に説明しご理解をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アメーバ経営に取り組んでおり職員からの意見や提案を発する機会があり、実践するようにしている。その他ミーティングや所長との個人面談などで意見や提案を聴く機会を設けている。	年2回、所長と職員の個別面談を設けて、個々の目標や研修計画などを確認している。接遇面や経費面については各職員が無理のない範囲で目標を決め、共有し取り組んでいる。隣接する市の土地の木から伸び出た枝の伐採を市に要請し、職員の労力削減に繋げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの家庭環境などを考慮し労働時間や希望休を受け入れて、勤務表づくりをしている。また、能力・性格を把握し、向上心をもって働き、スキルアップできるよう資格取得に努めている。統括責任者にいつでも相談できるようになっている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を通して職員の問題意識を明確にするとともに施設外の研修会にも積極的に参加している。実践者・管理者・リーダー研修を順次受講できるようにしており、職員個々に合った研修などを見極め参加できるようにしている。介護福祉士に挑戦する職員への協力体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アメーバ経営導入後、法人内のグループホームと情報交換の機会が増えている。また、法人全体の会議の場を通して情報の共有をしている。口腔ケア研修会に参加しサービス向上に向けた取り組みをしている。また施設外の研修会を通じて同業者と交流することができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームについて説明するとともに、実態調査時に施設での不安や要望を聴き、安心して生活できるよう体制を整えている。また傾聴することで信頼関係を構築し、安心して過ごしていただけるよう関係づくりに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時や契約時、不安に思っている事などの要望を出来るだけ詳しく聴き、利用者やご家族に耳を傾け意向や思いを受け止め、対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・担当ケアマネージャーからの情報を聴き、職員間で情報を共有し「その時」必要な支援を提供している。また意思疎通が困難な利用者の方にも常に目配り・気配り・心配りし、見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、日常生活を通して個人で出来ること・やりたい事を尊重しながら役割を見つけ、家事手伝いを中心に支援し暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月のほっとスマイル通信で近況報告している。通院の付き添いをお願いし、状態を理解して頂き共に支えていけるようにしている。ケアプランに家族の要望を取り入れ実践しており、面会時などに様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス対策の影響で面会に制限があるものの、親戚・知人・友人の面会時にゆっくりお話しができるよう支援している。電話や玄関での面会で対応している。5人のふるさとめぐりを行った。その際に何年振りかで近所の方に会えた方もいた。	2、3か月に1回程度の訪問理容が馴染みとなっている。自宅への帰省希望者にはふるさと巡りとして(だんらん利用者5人)が自宅周辺を巡った。花々が咲いていることを確認して満足された利用者もいた。希望を聞きながら、これからも継続したいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格を把握し、席の配置を工夫している。関係が円滑になるよう目配りしており、職員が間に入り利用者さん同士関わりあえる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にしながら必要に応じて相談やサービスの情報提供などを行い、退所後の支援に配慮している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを大切にその人らしい生活ができるよう支援している。困難な場合は、家族に聞いたり情報をいただき、これまでの生活歴などから意向を汲み取るよう努めている。	利用者本人のやりたいことを優先し、施設として出来ることや出来ないことをきちんと説明し、支援するようにしている。食事や起きる、寝る時間など無理強いせず、本人の希望を最優先としている。職員と1対1になる入浴の時間帯には積極的に話しをしてくれる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネージャーから情報収集を行い、フェイスシートを頂き、これまでの暮らしを聴き、情報収集したものをファイルにまとめ、全職員で共有し把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや業務日誌・連絡ノートやSNS、ホワイトボードを活用し、職員が把握・共有できるようにしている。バイタル測定・食事・排泄チェック票を活用し、観察を行いながら、一人一人の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、または状態に応じてカンファレンスを開催している。関係機関からの意見や情報を反映し、本人にとって最も適した支援となるようなケアプラン作成を心掛けている。	「ほっとスマイル通信」と併せ各担当者から1か月の通院や生活の様子等をお知らせしている。各担当者は細かくモニタリングを行い毎月のカンファレンスで共有し、具体的支援内容の見直しや変更を行っている。介護計画は、家族からの意向等を聴き取りしながら、6か月毎に見直している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に残し、職員間で共有している。また、ケアプランに基づいたチェック表で実践の状況を確認し、毎月担当職員がモニタリングを記入しプランの見直しが必要か評価している。全職員で閲覧して情報を共有しており介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス対策の影響でご家族との外出は実施できていないが、通院の付き添いの支援をしている。 季節ごとのドライブやふるさとめぐり、園庭散歩なども支援し臨機応変に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス対策の為できていない。 家庭菜園や花植えなどを園庭で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の希望するかかりつけ医で受診している。利用者さんの状態やご家族の希望に応じて訪問診療を利用し、必要な時に適切な医療を受けられるよう医療機関との連携を密に図っている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。状態が低下し通院が難しくなってきた方には、家族と相談の上、訪問診療に切り替えている。通院は原則家族対応であるが遠方や緊急時等は職員が対応し、受診結果は間違いのないよう家族としっかりと共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の勤務であるため看護師連絡ノートを活用し利用者さんの状態を報告し、出勤の日に確認してもらっている。更に、利用者の状態の相談やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人の施設での生活の様子を、アセスメントを元にサマリーを作成し、情報提供を行っている。入院中ご家族や病院に連絡し状態を聞きながら、早期に退院できるよう努めている。病院によってはご家族にのみ情報提供がされるため、ご家族との連絡は密に行っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りの取り組みはない。本人とご家族に、早い段階での話し合いを行い、その時に出来る支援(訪問診療や他施設の情報提供)をご家族に説明している。終末期の看護師による勉強会を行っているが、更なる環境整備と知識の習得が必要である。	看取り指針は作成しているが実際の看取りは行われていない。身体症状の低下等で医療が常時必要となった際には、家族と相談して最善の支援を選択してもらうようにしている。看取りを実施した経験がないことから、主治医等との協力体制等を検討していきたいとしている。	看取りの具体的な取組みに向けて引き続き検討し、利用者ニーズに寄り添った支援が充実されるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、全職員が対応できるようにしている。今後、普通救命講習会を定期的に行い、使用方法を確認し急変に備え対応できるようにしたい。急変時の対応について施設内勉強会などで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回、避難訓練(日中・夜間・地震想定)を実施。外部ベルを設置。年に一回総合訓練を行っており通報訓練と消火訓練も実施。BCP策定委員会を行いハザードマップを綴り対応できるようにしている。通信で非常時の協力を呼びかけている。	訓練は、消防署立会いによる総合訓練を含め行っている。ハザードマップ上で該当するエリアとはなっていないが年2回(春、秋)「ほっとスマイル通信」を地域に配布し、見守り等の協力を要請している。コロナ禍明けには、改めて近隣地域への協力要請を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないように気を付け、一人ひとりの性格を把握し、声掛けや伝え方などを工夫して人格を尊重した声掛けや言葉がけを心掛けている。	基本的にはさん付けで声がけし、馴れ親しんだ呼称を好まれる方には臨機に対応している。記録書類等は鍵のかかる書架で保管している。居室に内鍵はないが暖簾を入口に掛け、着替えは、居室やトイレなど必ず扉のあるところで行うなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の決定や順番・服選び、食事の献立やおやつなど本人の希望を聞いている。また自己決定しやすいように、分かりやすい表現にしたり、選択肢を用意し答えやすいよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるよう一人一人のペースを大切にしており、その日の体調などを配慮しながら、無理強いつせず支援している。食事作りの手伝い・洗濯物たたみ・歌番組の鑑賞など希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何名か入浴時の衣類の選択をしている。敬老会にはおしゃれをして、希望者には化粧をしている。起床時の身だしなみも声掛けなどをしながら行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月法人の管理栄養士に献立を見てもらいアドバイスを頂いている。毎月行事食を提供しており、誕生者には希望を聞き、お祝い膳を提供している。日頃から準備・盛り付け・食器拭きは、出来る人が出来るところを行っている。	献立は、随時、利用者の希望を聞きながら、冷蔵庫や家庭菜園の食材等を見て決め、不足分を近隣スーパーで購入し、フードロスに気を付けながら調理している。利用者は、食材の下拵えを含めて盛り付けや片付け全般に参加しており、テレビは消して楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、好みのものを提供し摂取量の確保に努めている。一人一人の食べられる量を把握しバランスよく摂取できるよう提供している。状態に応じて刻み食やミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月口腔ケア研修会に参加しており歯科医師・歯科衛生士より口腔ケアの方法などを学び、実践している。各々に合った口腔ケアを実践し、異常時は早期発見できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを活用し排泄パターンの把握に努めている。布パンツで対応できる方は布パンツを使用している。自分から訴えができない利用者さんのサインを見逃さないようにしている。	一人一人のリズムや状況に応じて声掛け・見守り・介助を行っている。入居前にリハビリパンツだった方が、失禁もなくなったため職員の支援で布パンツに戻った例もある。排泄に拒否や抵抗がある方には、パットの使用を工夫してみる等、不安や負担を感じさせないよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を意識して提供し、ヤクルトやヨーグルトを提供している。トイレ使用時腹部マッサージを行ったり、レク活動でラジオ体操を取り入れている。起床時牛乳を状態に応じて提供している。無理せず主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴したくないときは無理せず翌日に入浴できるよう支援している。状態に応じシャワー浴・手浴・足浴も行っている。週2回以上入れるように努力している。	週2回、午前中に実施し清潔を保持している。入浴を好まない方や嫌いな方が比較的多いこともあり、誘導のタイミングや日にちの変更、シャワー浴等、臨機応変に支援している。柚子湯やりんご湯、菖蒲湯など、楽しい雰囲気づくりを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日昼食後休息する時間を設けている。休息したい時に休めるよう、また部屋で過ごせるよう支援している。音や明るさ、温度湿度に気を配り、気持ちよく眠れるよう支援している。希望にそった就寝時間になっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携を取り情報や注意点を確認しながら、服薬後の状態や経過を観察するよう努めている。個人のファイルに最新の薬の情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたレク活動やドライブ・園庭散歩、家庭菜園などを行い、気分転換できるよう支援している。日常生活の中で笑顔や張り合いを自然に持てるよう、役割を担えるような雰囲気づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度希望する利用者に対して「ふるさとめぐり」を行った。季節ごとのドライブも行っている。園庭でおやつを提供したり、家庭菜園や花植えを行っている。コロナウイルス対策のため職員以外の人との外出ができていないが、感染状況を見ながら家族と外出をしたりする時間を大切にしてお対応ができれば、と願う。	時々散歩する方や家庭菜園・プランターに季節の野菜や花を植えて水やりをしてくれる方もいる。春の花見や秋の紅葉狩りの季節には、公用車(ワンボックス)で外出し、車窓から見学し季節を感じられるようにしたり、通院の帰りなど市内巡りを行い気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に管理していただきお小遣いとして施設で預かっている。現金を手元に置きたい方は所持できるよう支援している。理容料は、利用者から直接支払うよう職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば職員が間に入り、本人に代わりお話しして頂いている。手紙や写真が送られたときは、本人の希望に沿って職員が部屋に飾ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に不快や刺激がないよう配慮している。季節を感じる装飾を行い、温度・湿度調節に気を配り、夏季は窓を開放している。また、のれんを使用しプライバシーが守られるよう配慮している。冬季はこたつを設置し居心地よく過ごせるよう環境を整えている。	毎月、利用者と職員で装飾品を作成しホールや廊下壁面に展示している。8月は、「海と青空とひまわりと」をテーマにした貼り絵を作成・展示し、行事のスナップ、天皇ご一家の写真なども掲示している。だんらんユニットでは冬に畳スペースのコタツで寛げるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような環境づくりを行っている。共用スペースにソファも設置しており、自由に過ごせるようにしている。席の配置も考慮している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入所時、使い慣れたものを持ち込み使用できる ことを説明している。落ち着いて生活できるよう 家族の写真や気に入っている写真を飾り、安心 感を持って過ごせるよう環境を整えている。	エアコンやベッド、クローゼットが備えられ、利用 者はテレビ(みのりユニット)や時計、カレンダー や家族写真などを持参し、掲示したりしている。 部屋の掃除は、出来る利用者は職員と一緒に 行っている。入り口には表札代わりに顔写真(許 可を得た方)を掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置しており、転倒などのリス クを減らし安全かつ自立した生活が送れるよう工 夫している。居室やトイレの場所がわかりやす いよう表示しており、表札として写真を掲示して いる。		